

小学校における情報活用能力の育成

—コミュニケーション能力の育成と教科・総合的な学習の目標達成のために—

京都市立藤城小学校 教諭 寺田潤子

教諭 岡本敦子

<http://www.jnk4.org/nsproject/autumn/ja/>

キーワード：子どもが変わる，授業が変わる，学校が変わる，問題解決能力，情報活用の実践力

1. はじめに

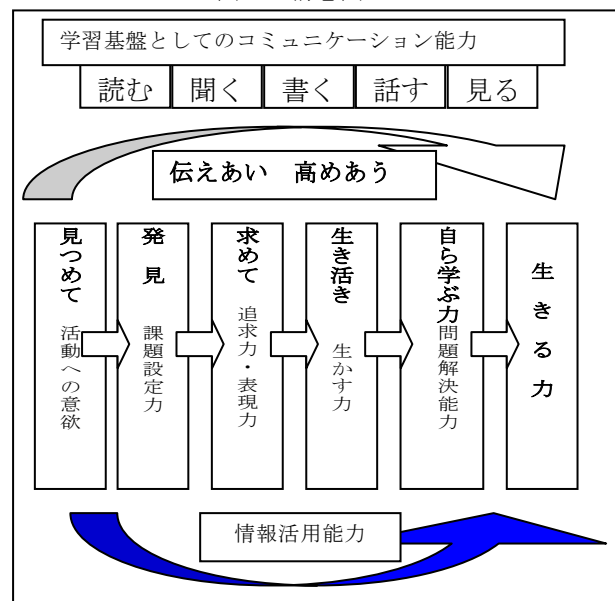
小学校における子どもたちの情報活用能力を育成するため、教育活動全体で情報教育を行うためのカリキュラムを作成し、全教職員で最初の一步から研究を進めてきた。「情報活用能力を基にした“生きる力”の育成」をテーマに自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力などを身に付けられるよう、体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り組み、実践研究を進めてきた。子どもを変え、授業を変え、学校を変えることをねらいとしている。

2. 取組の概要

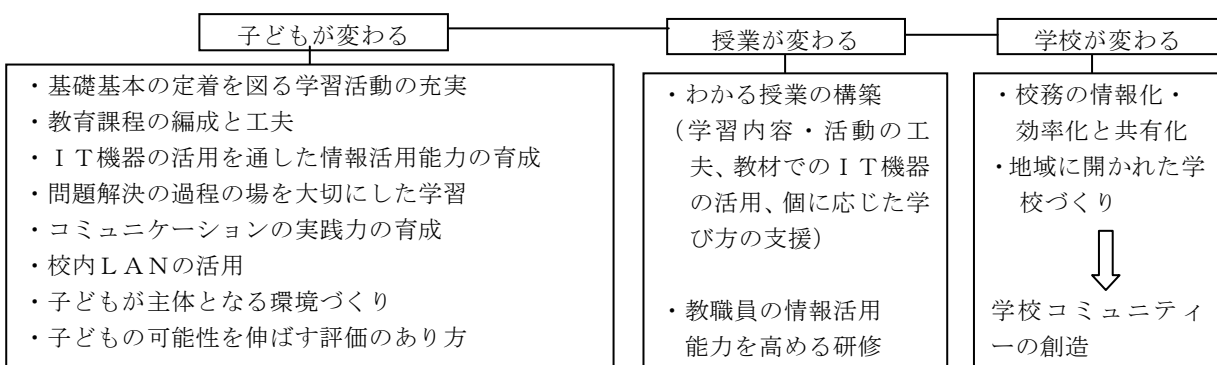
情報活用能力を基にした“生きる力”の育成
『 見つけて 発見 求めて 生き活き 』

- (1) 教育活動全体を通して、教育情報化の推進を図る。
- (2) 子どもたちが自ら考え、判断し、表現できる主体的な能力や創造性の基礎を培う。
- (3) 情報活用としての環境整備を行い、子ども達一人一人に情報活用能力の育成を図る。
- (4) 情報収集・発信や交流などで、人との関わり（コミュニケーション）を大切にする。
- (5) 教職員の情報教育に対する認識を深め、IT機器を有効活用した授業を創造する。
- (6) 校内LANの有効的な活用の方法を探る。

図1 構想図



3. 研究の重点



4. IT機器を活用しての基礎・基本の力の充実

問題の解決に主体的に取り組む能力や学んだことや自分の思いを伝え合う力を育成するためには、教科で「見方」「考え方」「調べ方」「学び方」「まとめ方」などの基礎的な学力を培うことが重要である。教科のねらいを達成し、教科で培われる学力を着実に身に付けさせるために、校内ネットワークや、IT機器を有効的に活用する授業展開を工夫していくことで基礎・基本の力を育成していった。

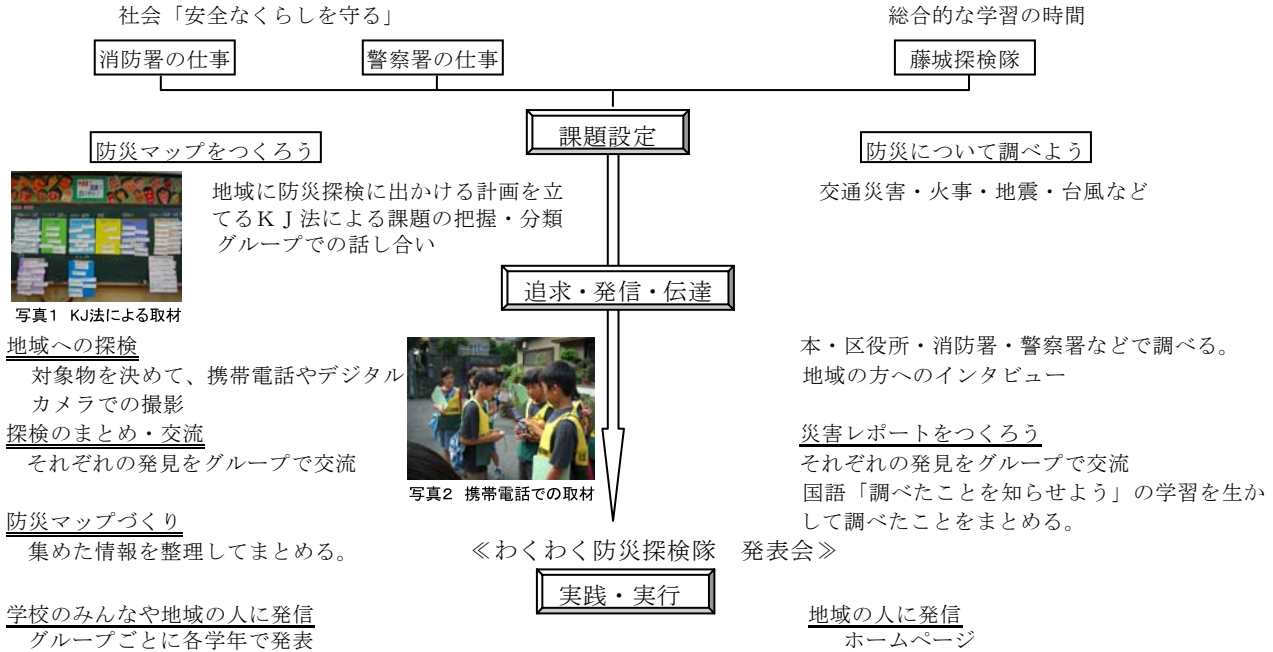
IT機器の利用、デジタルコンテンツ開発・利用、掲示板活用・学習ソフトの利用、教材の共有化

5. 情報活用能力の育成のための実践

(1) 教科・領域と総合的な学習の時間の有機的な関連を考えたカリキュラムの編成の実践例

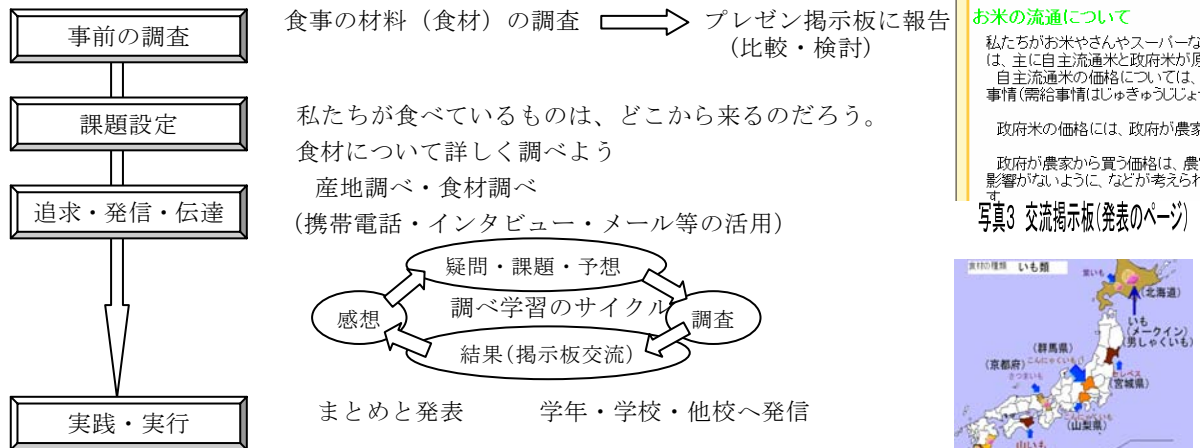
～わくわく防災探検隊（4年生の総合的な学習の時間の取組）～

情報活用の実践力を育成するためには、機会あるごとに、課題を設定する→追求する→表現する→生かすという一連の過程を繰り返し行っていくことで身に付くものとする。そこで、社会科や国語科、前期に取り組んだ総合的学習「わくわく藤城探検隊」の学習を生かし、「わくわく防災探検隊」につないでいった。



(2) コミュニケーション能力を高めるための実践例 ～食べ物はどこから（6年生の総合的な学習の時間の取組）

学んだことを基に自分の考えを持ち人と交流する中で新たな課題が生まれ、問題解決に取り組む能力や態度を身に付けることができる。そこで、6年生では、伝え合うことや人との交流を大切にしながら、「食べ物どこから」の学習に取り組んだ。



6. 成果と課題

- ・ 教科の学習において学んだ情報活用の力を総合的な学習の時間に生かすことができた。
- ・ IT機器を利用することにより、児童の学習意欲の向上と理解の深まりが見られた。
- ・ 交流の形態を工夫することにより、相手意識を明確に持って伝え合うことができた。
- ・ 引き続き、児童に付けたい力として、情報の収集・分析・選択の力、表現力・コミュニケーション能力の育成、情報モラルの育成などが挙げられる。
- ・ 校内LANやコンテンツ・教育ソフト等を活用し、教材の共有化を進めていき、児童に基礎基本の力を身に付けさせるための授業展開や、カリキュラムの整備が必要